

普天間基地の『キャンプ・シュワブ陸上案』『嘉手納基地統合案』
提案に抗議する緊急声明

県内マスコミは昨日 2 月 15 日、政府が、普天間基地移設に関し、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ陸上部への移設を検討していることを一斉に報じた。

報道によれば、平野博文官房長官が、普天間基地の国外、県外移転が不可能になった場合に備えて、北沢俊美防衛大臣に新移設案の検討を指示して取りまとめられたもので、しかも、政府与党 3 党内に設けられた沖縄基地問題検討委員会論議との整合性を装う立場から、国民新党案として、2 月 17 日に開催される同検討委員会に正式提案される予定になっているという。政府の本音を隠しつつ、与党内協議で政党からの自主提案を装うため、連立与党の一角からの提案を要請するなど卑劣を極める画策に断固たる怒りを表明するものである。

まさに許し難い政府による暴挙、沖縄県民に対する背信行為と厳しく糾弾されなければならない。この唐突な移設案は「沖縄県民の負担軽減の観点から米軍再編や在日米軍基地の在り方を見直す」とする連立政権 3 党基本合意に背くだけでなく、さる 1 月 24 日の名護市長選挙の結果に見られるように、今や県民一丸となって、普天間基地の県内移設反対に奔流となって動き出す県民世論を一顧だにしない蛮行と言わねばならないからである。名護市長選挙の開票結果に「斟酌する必要があるか」と開き直った、平野官房長官の本意が具体案となって取りまとめられたものと言わねばならない。

仲井眞県知事、稲嶺名護市長をはじめ、県内各界からこぞって反対意見が表明されるのは至極当然のことである。私たちは、満身の怒りを込めて抗議をするとともに、2 月 17 日の沖縄基地問題検討委員会への提案の中止を要求するものである。

また、政府の要請を受けた国民新党は、またもや、嘉手納統合案を持ち出し、キャンプ・シュワブ案と抱きかかえて、県内移設案を提案するという。国民新党とりわけその中心を担っている下地幹夫衆議院議員は、沖縄選出の国会議員として、県民の思いを受け止めるべきであり、県民が、下地氏の行動に憤り嘆き悲しんでいることを直視すべきである。県民は、辺野古現行案であれ、キャンプ・シュワブ案、嘉手納統合案であれ、これ以上県内での米軍基地のたらい回しに断固反対していることを認識し、その上で、県民の思いを思いとして受けとめて行動することを要請したい。

政府による普天間基地の県内移設画策を糾弾し、一方で、政府と一体となってそのことの実現に手を貸そうとする国民新党の動向に抗議し、検討委員会への県内移設案提案の中止を要求する。

あて先：平野博文官房長官、北沢俊美防衛大臣、
国民新党亀井静香代表、下地幹夫政調会長

2010 年 2 月 16 日

基地の県内移設に反対する県民会議